

四季のコンサートだより

1987年9月1日発行

浜松音楽友の会
事務局 浜松市東伊場1-10-507
電話連絡 (33)1291 (柴田)

86年夏のコンサート・インタビューから 大沢富枝

黒沼・提・関さんによる三重奏から、早いものでもう一年がたちます。当日はハーサルから力が入った演奏で緊張感がみなぎっていましたが、打合わせに入ると、それまでとは変って何やら同窓会気分さえ漂う和やかな雰囲気です。普段はメキシコ・アメリカ・日本と世界中に散らばっている人が演奏を機に出会うわけですから話はずきません。「すばらしい仲間たち」なのだと思う一方、この人たちを支えているのは音楽の楽しさと同時に互に切磋琢磨する厳しさなのではないかと感じました。

音楽も文学や他の芸術と同様、作品そのものを鑑賞する楽しみ方と、創り手の人間性とか生き方に興味をそえられる場合があります。十五・六年も前に続いた黒沼さんの「メキシコからの手紙」は一人の音楽家から、人間の平等と尊厳に対して発せられた強烈なメッセージでした。

メキシコの少数民族であるインディヘナの生活改善のために働く夫について山の中の小さな町で暮らした体験が描かれています。幼い子供を抱え、音楽家としての活動も制約される中で長い間の被支配民としての意識を内在化させ、甘んじる彼らに、それ以上でもそれ以下でもない、人間として対等の生き方を自ら実践していくのです。音楽という才能を接点とし子供たちと結びつき、家中探し回って鉛筆一本かやっという文化環境の中からも音楽を生み出してしまふ。少数民族に対して基本的な信頼と、深い共感を持ちつつ、自分を生かしていくしなやかさ、強さを思う時、彼女の女性としての生き方に心を奪われます。

昨今の経済摩擦の中で日本も国際社会の一員として自国の利益追求だけでなく他の国々と共に生きることを要求されています。黒沼さんはそのあり方を私たちに示してくれていると言えましょう。気負もなく卒直で飾り気のない温かな人柄が、彼女の確かな人間観を物語っていて、その夜の調べを一層魅力的なものにしていました。

発足5周年(1988年)コンサート予定

- 春「あし笛とたて琴の語らい」 宮本文昭(オーボエ) 篠崎史子(ハーブ)
- 夏「歌の夕べ」 佐藤しのぶ(ソプラノ) 木村俊光(バリトン)
- 秋「ピアノリサイタル」 ギャリック・オールソン(ピアノ)
- 冬「チェロリサイタル」 藤原真理(チェロ)

ふれあいコンサート

小学六年 奥 貴史

僕と音楽との関わりは、小学校一年生の頃ピアノを習い始めたことに始まります。（手を三回も骨折したため、時々中断しましたが…）

僕のコンサートに対するイメージは、ステージの上を猫が散歩し、蚊があたりかまわず飛びかうインドネシアのコンサートでした。（四年間インドネシア・ジャカルタ市に住んでいました。）

ふれあいコンサートには毎回かかさず行っています。ピアノやバイオリンなど沢山聞きましたが、最も心に残っているのは、「安部圭子マリンバリサイタル」です。色々な打楽器が入り、時にはインドネシアのガメラン音楽を思い出させるようなものもあり、とても楽しく、時には勇ましく感じられました。安部さんの話も面白く、すばらしいコンサートでした。

僕は現在、浜松児童音楽隊でティンパニーをたなっています。オーケストラの一員になって思いっきりティンパニーをたたけると気持ちがいいだろうなあなんて考えています。弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、色々な楽器が一つになってハーモニーを作り出すオーケストラ、もっともっとオーケストラを聞いてみたいです。

高校三年 村上 知香

先日、とあるテレビの音楽番組を視ていました。その番組では「音楽版、看板に偽りあり」と題し、一般によく知られている有名な曲をあげては音楽のきまりに反する箇所を指摘していきました。例えば「・・・のブルース」という曲は本来のブルースの形式をとっていない、本当のブルースとはこういう形式のものをいうのだ、という具合でした。取りあげられた曲もクラシックから歌謡曲までと幅広く、またそれぞれの終わりには看板に添うようにアレンジされたものが演奏され、この番組はきっと好評を博したろうと思います。

そんなきまりなんてどうでもいいじゃない、音を楽しめればいいのよなどと思っていた私ですが、ただ自由な感情表現のように見える音楽も、そういったきまりに合った形をとるからこそ表現力が増すのかもしれないと感じました。そういえば、ソナタ形式に表現される感情の移ろい、重なり（もっと深い意味があるのでしょうか）の例を思い出します。このことで、音楽への理解が少しだけ深まったようで、自分でうれしくなっていました。

ところで、音楽への理解は（それは知り尽くせるものではありませんから、理解という言葉は適切でないかもしれませんが）よい音楽に触れ、感動することがなければ、始まりません。日々忙しくしていると、つい音楽から離れがちです。だから一層、定期的に、また素晴らしい演奏を身近に聴くことができる四季のコンサートが楽しみにになります。できるだけ足を運び、いつも新鮮な感動を味わわせていただいています。今年の夏のプログラムでは、お料理番組のテーマでしか知らなかったマリンバが、あんなに繊細で、かつパワフルであることを知りました。このような会を開いて下さるスタッフの方々には本当に感謝致します。

続く秋・冬・そして来年・再来年と、これからも素敵な音楽、新たな感激を運んで下さることと期待し、今から待ち遠しく思っています。

反クラシック論

藤 卷 秀 夫

音楽友の全の親しい女性会員が「交響楽とヒデキ（もち西城）があったらどちらに行く？」僕は即座に「ヒデキだな」。相手はやっぱりと高笑い。

又、別の女性会員（女性ばかり）が「今晚又眠りにいらっしゃいます？」「そう最近寝不足でね」僕の音楽オンチも公認済みです。

季節はめぐって又楽しい例会がやってくる。家内のお伴兼おつかえ運転手の僕にひとときのスリーピングタイムがやってくるのです。著名な演奏家と言われても僕には未知の人です。なにしろ一曲が長いのです。早く次の曲に変わって下さいと祈っている内に睡魔のとりこになってしまいます。横腹にヒジ打ちか、足をふんづけられなければアイアンスリープは続きます。

二十数年前 浜松に労音が結成されて第一回の演奏会はたしか辻久子さんのバイオリンでした。すべきではない所で力一杯の大拍手をしてしまって（僕一人ではなく半分くらいの人が共犯です。）、辻さんが一寸とまどわれたことを記憶しています。クラシック音楽に劣等感を覚えた一因でしょうか。いやなにより、素養の問題と心得ています。

クラシックはだめでも柔かいものは人一倍です。FM放送の番組にさっと目を通すとテープを用意します。柄にもなくソウルは三十曲ばかり、題も歌手も知らないけれどバックミュージックとして良い雰囲気。最近のテープ録音で気に入っているのは、美空ひばり・石川さゆり・岩崎宏美・内藤やす子の歌声。男性もあります。艶っぽい井上陽水、センスの良いサザンの桑田等とっかえ、ひっかえ車の中で楽しんでいます。五十二才にしては、やや幼稚といわれる由縁です。

でも僕も人の子です。努力と忍耐あるのみです。たとえ眠りながらもこのふれあい音楽会に参加して、やがては心の底からクラシックの名演奏に酔いしれるようになりたいものです。



カット/柳沢紀子

- 秋のコンサート 10月9日(金) PM7:00 岡田博美ピアノ・リサイタル
- 冬のコンサート 12月8日(火) PM6:30 佐藤陽子ヴァイオリン・リサイタル

秋のコンサート 開演時間を変更しましたのでご承知下さい。

スタッフだより

スタッフ 太田久美子

7月26日、九州のホテルでの事です。「まあ、お久しぶりですね、浜松の皆さんはお元気ですか？友の会の方はうまく行っていますか…」明るくはずんだ声、どなたの声だかおわかりになります？あのバイオリニストの黒沼ユリ子さん。浜松でのコンサートの事、覚えていて下さったのですね。大感謝です。

昨年度より出演者の方達の接待係をお引き受け致しておりますが、初めはとても不安でした。

昨年の春のコンサートが私の初仕事です。花房晴美さんを浜松駅までお迎えに。「わざわざ すみません。私、ひとりでも大丈夫でしたのに…」市民会館へ着いて食堂へ直行/サンドイッチを召し上がりながら「私、ピアニストになる気は全然なかったのよ。家族も誰も思っていなかったのに知らないうちになっちゃって…」何とやらやましいお話。ピアニストになりたくて死ぬほど努力してもなれない人が山ほどいるというのに…「それじゃあちょっとサラってきまあ〜す」と私一人を食堂へ残してバタバタと(本当にバタバタという感じで)ステージへ。何とタフな花房さん！

秋の桐朋学園オーケストラの時は大変でした。何しろ100人をこす人数でしたのでスタッフ全員が指揮者、ソリスト、学年達の接待にあたり、アルバイトの方達の助けを借りてやっと…という感じでした。でもどんなに忙しくて大変でも、演奏が始まりあのピーンと張りつめたステージの空気が楽屋にいる私達にまで伝わってくると、私達スタッフは「このコンサートをはじめて本当によかった!!」と思うのです。

演奏終了後、学生達よりひと足先にタクシーでホテルにもどられた指揮者の秋山和慶さん。ホテルの入口にずっと立っていらしてバスで帰って来る学生さん1人1人に、握手をしたり、肩をたたいたりしてお声をかけていらっしやいました。御自身もお疲れでしょうに、とてもやさしくて暖かい感じの秋山さん。桐朋のオーケストラが素晴らしい訳ですね。

この四季のコンサートを通じて、今までにいろんな演奏家の方々にお逢いする事ができましたが、一流といわれる方達はやはり人間的にもとても魅力のある一流の方達ばかりでした。私達スタッフも、がんばって一流のスタッフに…そして会員の皆様は一流の聴衆に…演奏家と聴衆とスタッフが一体になった時、本当に心にひびく良い音楽が…なんてえらそうな事を考えております。秋と冬のコンサート、とても楽しみです。岡田博美さん、佐藤陽子さん……どんな方かしら？



お知らせとお願い

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちしております。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。

会員登録 は年度が変わっても、そのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の10月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。
名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の 住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。